

私たちは守られている。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2198号
(2009年11月4日発行)より

昨日のことでした。

明けがた、誰かに見られているような気がして、ふっと、窓の外を見ました。そのとたん、西の空のまんまるな月が、目に飛びこんできました。

すでに、東の空は明るくなりかかっているというのに、月の光は、とても強く、そのまるい輪郭をくっきりと示しながら、凜と、そこにいます。

そういえば、今日は満月と、何かに書いてあったっけ。でも、それって、今夜のことだね、と思いましたが、それはもうほとんど完全な満月とっていいエネルギーに満ち満ちて、光を放っていたのです。

そのあまりの神々しさに、私は、仕事の手を止めて、じっと見とれてしまいました。

月と自分がつながって、ひとつになっているような、月が私に、エネルギーを注ぎこんでくれるような、そんな気持ちになったのです。

不思議な体験でした。

これまでだって、満月は、何十回、ひょっとしたら、何百回と見てきたはずなのに、その明けがたの月は、かつてないエネルギーで、私に語りかけてくれているように感じたのです。

ほうっと、見とれるうちに、月はゆっくりと、西の地平に沈んでいきました。

それだけです。

今日、あなたにお伝えしたいことは、それだけなのです。

メッセージにも何もなっていないのですが、思い出しても、胸のなかが、ちいさくふるえるようなのです。その胸のふるえを、どうしても、お伝えしたくなったのです。

でも、いま、これを書きながら、私がなぜ、伝えたいと思ったのか。そのこたえが、おりました。それは…
私たちは、いつでもおおいなるものと

つながっている。ということでした。
もう一度、書きます。

私たちは、どんなときでも、ひとりではないのです。私たちを生かしてくれている、おおいなる存在とともに、あるのです。
その、おおいなる存在に守られて、生きているのが、私たちなのです。

さて。

そんな気持ちになったにもかかわらず、その夜は、月のことはすっかり忘れていました。

そして、今日の明けがた。

あつ、と思い出して、窓の外を見ると、月が見えました。

まるでそれは、「おつ、思い出したようだね。私はいつでもここにいるよ」なんて、言っているようでした。

東の空を見ると、山の端が、赤く染まっていました。

西の地平に、沈む月。東の空に、のぼるおひさま。どちらも、たとえようのないほど、美しい光景でした。

ああ、本当だ…。私たちは、守られている。守られているということを、忘れていたときでさえ、私たちは守られている。

あらためて、そんな気持ちがかみあげてきました。それで、そのことを忘れないために、今朝のこのメッセージを書いています。

私を感じたことは、あなたにも起きていることです。私が守られているように、あなたも守られているのです。あなたがそれを知っていようがまいが、思い出そうが忘れていようが、私たちは、おおいなるものと、ともにいます。それは、過去もいまも未来も、変わらずに、そうあるのです。

この気持ちを、あなたとわかちあえたら、私は、とてもうれしいです。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2009年4月**、**2000号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>